

テーマ	育ててからの評価 -4 技能型授業を実現する仕組み-				
対象	中・高	使用言語	日本語	所要時間	90 分程度
<p>概要</p> <p>アウトプット活動の評価が難しいとお感じになる先生は少なくないようですが、それはなぜでしょう。4 技能の評価にしても、主体的取り組みの姿勢の評価にしても、生徒が概ね 4 技能を駆使していたり、だいたいの生徒が主体的に取り組んでいたたりすれば、実はそれほど難しいことではないのです。難しさは評価方法にあるのではなく、生徒が実際には 4 技能を使ってなかったり、主体的に取り組んでいない、つまり実態のないものを評価しようとしているからというのが実際のところではないでしょうか。評価の方法を考える前に、生徒が英語で話し、英語で書くという教室文化を創り上げることが大切です。本講演では、「評価以前の準備活動」として、生徒が 4 技能を駆使し、主体的に学ぶことを促す授業づくりの手順をワークショップ形式でご紹介します。</p>					
講師	内田浩樹				
<p>講師略歴</p> <p>内田浩樹（うちだ・ひろき）南山大学文学部卒、南山大学大学院外国語学研究科修了。愛知県立半田（はんだ）商業高等学校教諭、名古屋短期大学専任講師、鳥取環境大学准教授などを経て、現在、国際教養大学専門職大学院グローバル・コミュニケーション実践研究科研究科長・専攻長、英語教育実践領域代表・教授。専門は、英語教師教育、英語教育プログラム開発、教材開発、語彙指導など。著書は「つむぐ英単語（河合出版）」、「PLAY! 拼裝英單（笛藤出版・台湾）」「英単語メモリー（Jリサーチ出版）」など。また、「国際教養大学・内田浩樹教授のライブ授業シリーズ」（ジャパンライム）等を通じて授業実践を DVD で発信している。</p>					